

施策マネジメントシート(平成27年度の振り返り、総括)

作成日 平成 28 年 6 月 30 日

基本目標	II	豊かな自然と共生するまち	主管課	名称	生活水道課
				課長	高橋 孝一
施策	17	水道の整備	関係課		

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
			2 安全な水道水の供給	加入者	安全な水道水の供給を受けられる。
			3 水道事業の健全運営	加入者	適正な料金で水道水の供給を受けられる。
			4		
			5		

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
				A	水道普及率	%	実績値	96.7	97.1	96.9
			目標値		96.7	96.7	96.7	96.7	96.7	96.7
B	有収率	%	実績値	77.9	78.0	78.0	78.0	78.0		
			目標値		78.0	78.4	78.8	79.2	79.6	80.0
C	水質に関する苦情件数	件	実績値	0	0	0	0	0		
			目標値		0	0	0	0	0	0
D			実績値							
			目標値							
E			実績値							
			目標値							
F			実績値							
			目標値							

指標設定の考え方と実績値の把握方法

A) 数値が高まれば、結果として町民が安全な水道水の供給を安定して受けられることに繋がるため成果指標とした。(水道ビジョン目標値) 給水人口/給水区域内人口 決算及び推計値

B) 数値が高まれば漏水がなくなるなど、安定した水道水の供給に繋がるため成果指標とした。(水道ビジョンの目標値は有効率95%以上) 決算及び推計値

C) 件数が減れば、町民が安全な水道水の供給を安定して受けられているといえるため、成果指標とした。 広範囲にわたる相当な被害で直接町に苦情を申し入れた件数

目標値設定の考え方

A) ある程度高い水準にあり、住民の中には水道水よりも自家水道(井戸水など)を希望する人がいることから今後大幅に数値を上昇させる必要性は低い。また、山間部に位置するという地形や財政面を考慮すると短期的に数値の向上は困難。【国平均:92.7% H26】

B) 今後人口の減少に伴って水道利用者は減少すると考えられ、水道会計を安定的に運営するためにも有収率の向上は不可欠。財政的な面を考慮すると数値を大幅に向上させることは困難であり、水上地区や新治地区の石綿管の更新を実施し、有収率を徐々に向上させる。【国平均:89.8%(H26)】

C) 水道施設遠隔監視システムの導入や浄水場の取り入れ口に濁度計を設置するなど防止策を実施し、水質に関する苦情を大幅に減少させた。しかし、根本的な解消が進んだわけではないため、自然災害の濁り等に迅速に対処できる体制づくりや安全で安定した水源を活用することで、安定的に苦情件数0件をめざす。
※濁度は水源地が濁って、給水区域が給水不能となったことを表している。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①節水に努める。 ②水道を使用した場合は使用料を納入する。	①水量を確保し、水質を向上させる。 ②水道施設を整備・充実する。 ③水道事業を適正に運営する。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①経営の観点からすれば、人口が減少すると水を使う人が減るため、水道料金の徴収額は上がらない。 ②平成26年度から公営企業の会計の仕組みが変わり、借入金が負債として計上されるようになるため、一般の企業と同様の方法で、経営状況を把握できるようになる。 ③平成28年度以降、すべてが上水道事業となるため、町は簡易水道の補助金を受けられなくなる。併せて簡易水道債・過疎債も対象とならない。 ④地区の組合で管理している水道の経営が困難になる。	①水道の安定供給(水圧・水質)を望む声、毎年数件寄せられている。 ②下水道区域の水道料金については、下水道料金が上乗せになっているため、水道料金が高いという声がある。 ③近年、修繕工事等においてやむを得ず断水することがあるが、特に事業者からの断水件数(災害・事故・工事)を減らしてほしいという声がある。また、事後の濁水発生、空気混入等の問題もある。多数の利用者が影響を受けるような修繕等は、水を止めずに行ってほしいとの声がある。

施策	17	水道の整備	主管課	名称	生活水道課
				課長	高橋 孝一

		実績比較	背景・要因
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	①水道普及率は、平成26年度96.9%、平成27年度96.9%と横ばいで推移している。 ②有収率は、平成26年度78.0%、平成27年度78.0%と横ばいで推移している。 ③水質に関する苦情件数は0件になっているが、根本的な原因に対する取り組みが完了していないことから、これから先も自然災害(大雨)に対処出来るような体制づくりをしていく。 ④平成27年度の水道料金収納率は98.6%と前年と比べると1.2ポイント高くなってきている。(5月末現在)
	② 他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	①平成27年度の水道普及率は96.9%であり、平成26年度の全国平均92.7%や同規模の水道事業者(給水人口1.5万人以上3万人未満)の81.2%と比較すれば高い水準となっている。 ②平成27年度の有収率はみなかみ町は78.0%であり、平成26年度の全国平均89.8%や同規模の水道事業者(給水人口1.5万人以上3万人未満)の83.0%と比較すればやや低い水準にある。 特に水上地区は低く、有収率を向上させるために老朽化した石綿管等の布設替えを計画的に実施して行かなければならない。
	③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	①水道普及率はほぼ目標値に近づいたが、有収率の向上をめざし漏水修理及び老朽管の布設替工事を実施し、現状維持を保った。 ②水道遠隔監視システムの導入により、町全体が一つのシステムで監視が出来るようになり、職員全員が同じ形の維持管理(細かなチェック)が出来るようになり水道水維持管理が一定の基準により安定供給が出来るようになっている。
成果実績に対する総括	①藤原(平出・大沢)地区の老朽管布設替が、予定どおり700m完了した。 ②各地区の漏水対策工事を行った。 ③各施設のポンプ運転時間の把握を行い電気の使用料金の削減に向けた計画書草案を作成した。 ④旧水上・旧新治地区に無線検針が出来るよう無線メーター器の設置が完了した。また、併せて水道料金・企業会計システムの移行を進めている。(平成28年度稼働) ⑤水道事業の統合(簡易水道を上水道に統合)をした。 ⑥水道料金等の徴収を外部委託にした。(継続)		

		基本事業名	今後の課題	平成29年度の取り組み方針(案)
今後の課題と取り組み方針(案)	1	水道水の安定供給	①良質な水道水の供給が難しい地域と、安定した水量の確保が難しい地域がある。 ※気象状況等により、表流水の濁度に対応するための浄水場建設及び豊富な湧水の有効利用を図る。浄水施設は、水需要予測による将来水量を考慮して必要性が高い順に施設更新を必要とするが、水系別に見ると、標準とされる12時間分を確保出来ない水系がほとんどであるため、既存施設を有効に利用できるよう施設の統合も必要である。	①水源である湧水の増量、老朽化した浄水場の統合(旧猿ヶ京簡水・旧東部簡水)をすすめる。 猿ヶ京地区と東部地区の施設を統合するため、猿ヶ京浄水場を新たに建設し東部浄水場を廃止、猿ヶ京浄水場系の給水区域として拡張していく(平成28年度～平成30年度) 平成29年度実施 ・猿ヶ京浄水場建設(4,000㎡/日処理予定)
	2	安全な水道水の供給	①配水管網での水質管理水準を向上するため、末端給水栓等で水質検査のほか、定期的な管網での実測調査等を行い、配水圧・残留塩素濃度等の把握に努める必要がある。 ②みなかみ町内の水道管には石綿セメント管が残っているため、引き続き更新事業を積極的に進める必要がある。湯原地区内は道路改良(融雪道路)と同時に進めて行かなければ、水道事業だけでは事業費が膨大になるため布設替が出来ない状態である。	①配水系ごとの配水圧と残留塩素濃度の詳細な検査を実施する。 ②湯原温泉街の老朽管の布設計画を作成する。
	3	水道事業の健全運営	①人口減少に伴い利用者数の減少により、料金収入の増加が見込めない。 ②老朽化した水道施設が更新・改良時期を迎えており、更新改修等の費用の増加が見込まれる。 これらにより持続的な水道事業の健全経営が難しくなりつつある。	アセットマネジメント(H25策定済)を活用して、経営基盤を一層強化していく必要がある。資金の確保、企業債残高の削減に計画的に取り組み、財政バランスを見ながら効率的な事業運営に努めていく必要がある。 ①豪雪地区の認定検針を無線検針に変え冬も確実に検針を行い料金徴収に反映させる。 ②資金を確保するため、起債・合併特例債を計画的かつ有効に活用する。

17 水道の整備

17-01-000001		担当組織	生活水道課 上水道グループ			事業費	円			
原水及び浄水事業		予算科目	会計	款	項	目				
事業概要	事業の意図	施設の巡視及び維持管理 微な修理)			異常事態の早期発見(軽 水源地点検		平成27年度	単位	○	目的妥当性
							20	日	○	有効性
									○	効率性
									○	公平性
総括と今後の方向性	全体総括	ほぼ計画どおり進んできている。			予算の範囲内で事業を執行する。		特になし。			
	今後の改革改善案						課題とその解決策			

17-01-000002		担当組織	生活水道課 上水道グループ			事業費	円			
配水及び給水事業		予算科目	会計	款	項	目				
事業概要	事業の意図	配水施設を適切に維持管理する。			平成27年度		単位	○	目的妥当性	
					配水施設の事故により断水した回数		0	回	×	有効性
									○	効率性
									○	公平性
総括と今後の方向性	全体総括	何とか問題もなく維持管理は進んでいるが、危険性も歪めない			民間委託の導入を考えていくことも、効率化と経費の削減にもつながるのでは無いか。		予算の配分方法・職員に配置関係など見直すことが多く出てくる。			
	今後の改革改善案						課題とその解決策			

17-01-000005		担当組織	生活水道課 上水道グループ			事業費	円			
道路拡幅工事等にとまう水道管移設事業		予算科目	会計	款	項	目				
事業概要	事業の意図	支障個所の移転			平成27年度		単位	×	目的妥当性	
					給水区域内の布設工事		箇所	×	有効性	
									○	効率性
									○	公平性
総括と今後の方向性	全体総括	道路工事が発生した時点で事業が発生する。			工事の仕様を統一し、効率化を図る。		地区毎に違いのある工法等を見直し統一を目指す。			
	今後の改革改善案						課題とその解決策			

17-02-000001		担当組織	生活水道課 上水道グループ			事業費	円			
簡易水道連絡管布設事業		予算科目	会計	款	項	目				
事業概要	事業の意図	上羽場地区の水の供給を安定させる。			平成27年度		単位	○	目的妥当性	
					断水件数		件	×	有効性	
									×	効率性
									○	公平性
総括と今後の方向性	全体総括	予算の範囲内で適正に事業執行ができています。			他事業と連携し経費削減を図る。		財政難から事業費の確保が困難である。			
	今後の改革改善案						課題とその解決策			

17 水道の整備

17-03-000002		担当組織	生活水道課 上水道グループ		事業費	円			
水道料金賦課徴収事業		予算科目	会計	款	項	目			
事業概要	事業の意図	水道事業の財産状態及び経営状況を明らかにし、水道事業の会計を適正に執行する。		平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性
				水道料金収納率	80	%		×	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	コンビニ納付の導入により、納付の利便性が向上される。		課題とその解決策	滞納数を減少する方法としてコンビニ納付を考えていかなければならない、だが経費の増加も付いてくる。			
						×	効率性		
							○	公平性	

17-03-000003		担当組織	生活水道課 上水道グループ		事業費	円			
水道料金審議会事業		予算科目	会計	款	項	目			
事業概要	事業の意図	町長の諮問について答申		平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性
				議題数		件		○	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	審議会からは水道事業の安定経営をしていくには料金改定は欠かせないと言う答申はできているが、町として行動になかなか移せない		課題とその解決策	町は料金改定をしなければならぬが、現状を考えるとなかなか先に進めない。			
						×	効率性		
							○	公平性	

17-03-000004		担当組織	生活水道課 上水道グループ		事業費	円			
水道事業消費税申告納付事業		予算科目	会計	款	項	目			
事業概要	事業の意図	上水道事業の適正な申告を行う。		平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性
				遅延なく納入出来たか	100	%		○	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	消費税法納入方法をわざわざ外注事務事業にすることはなく、職員の申告作業で十分であるため。		課題とその解決策				
						○	効率性		
							○	公平性	

17-03-000005		担当組織	生活水道課 上水道グループ		事業費	円			
日本水道協会参画事業		予算科目	会計	款	項	目			
事業概要	事業の意図	会議や研修会に参加し、事業運営のために必要な知識を習得し、使用者に対し安全安心な水道水の供給を図る。		平成27年度		単位	評価結果	○	目的妥当性
				会議・研修会等への参加延べ数	1	人		○	有効性
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	負担金事業の為事業量の改革及び町ではなにも出来ない		課題とその解決策				
						○	効率性		
							○	公平性	

17 水道の整備

17-03-000006		担当組織	生活水道課 上水道グループ			事業費	円				
利根沼田簡易水道協会参画事業		予算科目	会計		款		項		目		
事業概要	事業の意図	必要な情報の習得		平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
				情報の習得割合					100	%	<input type="radio"/>
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	利根沼田簡易水道協会に加入しているので団体の事業を進める。			課題とその解決策	町単独でどうにかなる問題ではないので、すぐに簡素化出来ない。				
							<input type="radio"/>	効率性			
								<input type="radio"/>	公平性		

17-03-000007		担当組織	生活水道課 上水道グループ			事業費	円				
水道事業企業債償還事業		予算科目	会計		款		項		目		
事業概要	事業の意図	財源計画に基づき、対象で示した①・②の必要を適正に借入れし、銀行等資金については、より低利なところから借入れを行う。		平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
				公債費負担率					100	%	<input type="radio"/>
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	起債を適正に管理し償還する事務であるため、廃止や拡張等の方向性はないまた、起債借入額は政策判断や財政状況により決定されるものである。			課題とその解決策	財務省による申請様式、方法に従って手続きを進めているため、事務の簡素化等の向上については国によるところが大きい。また、借入予定額の決定が年度末のため条件設定や借入手続きなどの事務処理期間が短い点も課題である。				
							<input type="radio"/>	公平性			
								<input checked="" type="radio"/>	効率性		

17-03-000008		担当組織	生活水道課 上水道グループ			事業費	円				
利根漁業協同組合活動費補助事業		予算科目	会計		款		項		目		
事業概要	事業の意図	取水量の確保のため		平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
				取水量					430	m3	<input checked="" type="radio"/>
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案				課題とその解決策					
							<input type="radio"/>	公平性			
								<input type="radio"/>	効率性		
								<input type="radio"/>	公平性		